

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 26 日現在

機関番号：32663

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23330232

研究課題名(和文)国際教育プログラムの質保証と学習成果分析

研究課題名(英文)Quality Assurance and Learning Outcome Assessment of Education Abroad Experience

研究代表者

芦沢 真五(Ashizawa, Shingo)

東洋大学・国際地域学部・教授

研究者番号：00359853

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,900,000円、(間接経費) 3,870,000円

研究成果の概要(和文)：海外学習機会の「多様化」と「大衆化」が進む中で、学生の「学び」をどう可視化し、学習成果をどう評価するか、が喫緊の課題となっている。欧州や北米においては、履修科目数、学習時間数などのアウトプット評価ではなく、実際に学生が「何を学び、何ができるようになったか」というアウトカム(学習成果)が重視されている。多くの大学でEポートフォリオによる学習成果分析が行われるとともに、学生自身が学習プロセスを振り返るために活用されている。本科研では、こうした先行事例から学び、国際教育プログラムの質保証と学習成果分析の実証をおこなった。また、Eポートフォリオと活用した学習成果分析の有効性について検証した。

研究成果の概要(英文)：As study abroad opportunities become diversified and more accessible, assessing the learning outcomes of those programs has become a critical issue for international educators. Assessing learning outcomes of students in study abroad programs in North America and Europe is widely practiced; however, Japanese universities still rely on output-based analysis. The current worldwide trend utilizes an e-portfolio system for outcome assessment while allowing students an opportunity for self-reflection. This research project analyzed recent models of learning outcome assessment and actual e-portfolio usage.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：国際教育 教育支援 学習成果分析 比較教育 ポートフォリオ 学びの可視化 ルーブリック 教育評価

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 海外学習や国際教育の多様化

海外学習機会が内容・期間の両面で多様化しつつある今日の日本では、様々な国際プログラムが展開されるようになっていた。文部科学省による新たな国際化推進事業としての「グローバル人材育成推進事業」のような学生の海外学習や語学力を強化する事業が2012年に始まることもあり、各大学で従来から実施されている語学研修や協定留学などに加え、各種の短期派遣プログラム(海外インターン、国際ボランティア、フィールドワークなど)も実施され、海外学習体験は今なおさらに多様化していくと思われる。

### (2) 海外学習や国際教育の評価の変化

また、少数の選抜された学生が留学していた時代から、広範な学生層に多様な機会が提供されるようになったことも昨今の大きな変化である。選ばれたエリートのみが留学していた時代には、留学先で履修した授業科目数や成績に基づき単位の認定と成績判定が行われてきた。しかし、今日の大衆化モデルでは、履修した科目数・学習時間数・自習時間数などを基準とするアウトプット型評価だけに依存するのではなく、実際に学生が「学習体験を通じて何ができるようになったか」というアウトカム重視の評価軸が注目を集めている。この転換は、国際教育の分野というよりも全世界の高等教育機関で質保証の視点からすすめられている。

### (3) Eポートフォリオの運用開始

このように海外学習が量的に拡大し、いわば留学の「多様化」と「大衆化」が進むと、質保証の観点から学習成果にかかわるデータを質的・量的に把握し評価するツールの開発が急がれる。Eポートフォリオ(オンラインポートフォリオ)は、欧州や北米において、学生の「学び」をどう可視化し海外学習体験

での学習成果をどう評価するか、という視点から注目され、すでに相当数の大学で運用が開始されていた。日本においては、本科研がスタートした時点では、教職課程やキャリア支援の分野などでの実践例がみられたものの、限定的な利用にとどまっていた。こうした背景の中で本科研は、日本の大学に適合した国際教育プログラムの学習成果分析ができるEポートフォリオに焦点をあてたプロジェクトとしてスタートした。

## 2. 研究の目的

### (1) Eポートフォリオの検証

Eポートフォリオの運用が留学など国際教育プログラムの学習成果把握・分析において有効であることはすでに言われていたため、本科研では、高等教育機関における学生の海外学習体験を可視化するツールとして、Eポートフォリオがどのような可能性をもつかをさらに深く検証することを目的とした。

### (2) 先行研究の比較分析

質保証をともなった国際教育プログラムを推進するために欧米を中心にとりくまれているさまざまな学習成果分析(Learning Outcome Assessment)の手法を比較研究した。

### (3) 学習成果分析の指標と手法を提示

国際教育プログラムにおける「学生の学び」を可視化しようとする種々な取り組みを分析し、日本の大学に適合した学習成果分析の指標と手法を提示することを目標とした。

## 3. 研究の方法

### (1) Eポートフォリオ運用実態調査・分析

2012年2月に北米調査・豪州調査を実施し、ジョージタウン大学、ワシントン周辺のバージニア工科大学、中西部のインディアナ大学パーデュー校インディアナポリス(IUPUI)、デアキン大学などでのEポートフォリオの

先進事例としての運用実態を調査した。学生ポートフォリオの開発者や実践的に運用している研究者を訪問し、Eポートフォリオの運用にかかわるデータ収集も行った。

#### (2) 学習成果分析についての先行研究の国際比較分析・検証

学生時代に海外学習体験を持つ社会人がどのようなキャリア形成をとげているかを追跡調査した研究も欧米では盛んに行われているが、次の2つの調査を中心に分析した。

CHEERS (高等教育後のキャリア研究): 欧州を中心とする12カ国の3,000人(対象36,000人)の大学卒業生を対象にした調査で、「高等教育」と「雇用」についての分析。

グローバル・エンゲージメントのための海外留学(SAGE): 米国で2006年から国務省などからの支援を得て実施されたプロジェクト。6,000人以上の海外留学経験者を対象とするオンライン調査で、「海外経験」と「資質開発」の関係性についての分析。

#### (3)Eポートフォリオの運用と改良

明治大学および協力大学の国際教育プログラムで実際にEポートフォリオを運用しその成果を海外事例と比較する研究を行った。

### 4. 研究成果

#### (1) Eポートフォリオ運用実態調査の成果

この調査において、Eポートフォリオの運用の際は、利用者が目的を明確にして長期にわたって計画的に運用していく必要があり、学生自身がデータをアップデートすることが不可欠であることを確認した。キャリア形成のために学生自身がEポートフォリオのデータの一部を公開しそれがデータ入力インセンティブになっている事例は多い。

これらの調査結果を踏まえて、国際教育プログラムにおける学習成果の指標案を策定し、明治大学でのシステム開発に活かし、

2012年度に「国際キャリア特論」の受講者を中心に、授業の一環としてポートフォリオを作成することを課し試験運用を開始した。

#### (2)先行研究調査から得た成果

先行研究の調査から、留学直後だけに実施するアンケートでは、留学の効果を十分に分析することは困難であることが分かった。並行して評価指標の比較・検証の結果、下記の活用を考えることにした。

##### ルーブリック(評価基準表)の活用

AAC&U (Association of American Colleges and Universities)が作成した異文化バリエーション・ルーブリックを翻訳して分析した結果、長期にわたった学生の意識変化、学びのプロセスを把握するうえで、ルーブリックなどを設定し自己評価を行わせると成果の段階的な分析に役立つことが有効であると結論付けられた。したがって、独自に開発した異文化適応ルーブリックを東洋大学国際地域学部の二つの授業で利用し、学生自身と教員の学生へのフィードバックに活用している。

##### IDI (The Intercultural Development Inventory) の活用

異文化適応テストの一つであるIDIは、学生の異文化適応を分析するために開発されたテストで、学生の留学前・留学後に実施して、留学体験の効果測定に使用されることが多かった。本科研では、Eポートフォリオにおける定期的な「自己診断」としてIDIを導入して運用したところ評価指標としての重要性がわかったため、2013年度東洋大学国際地域学部で海外研修や長期留学に参加した学生に対して、出発前後にそれぞれIDIを実施することにした。このIDIの結果に関しては、他大学での利用実績と比較に加え、学生へのフィードバックをおこなっている。

#### (3)Eポートフォリオの本格的運用と改良

このように、学生自身が自分の異文化理解

度を自己分析できるようなチェックリストを装備することの意義を確認できたため、IDIの結果をポートフォリオ上で蓄積するなどシステム改良を行った。

またこれにより、卒業後も長期にわたり個々の学生の意識把握や学生や社会人のキャリア形成プロセスを追跡することができる。これを発展させれば、留学後5年・10年を経過して、留学体験が個人のキャリア形成や人格形成にどのようなインパクトを持ったかの調査が可能になることが確認できた。

2013年4月からはこれまでの研究の成果を活かして、明治大学・東洋大学でEポートフォリオの運用を推進した。つまり、明治大学における試験運用に加え、東洋大学では国際地域学部の1,2年生を対象にEポートフォリオが本格的に導入され、約1800名の海外学習実績、外国語学習履歴、国際的な活動、異文化理解にかかわる学習履歴などのデータを蓄積するとともに、学生自身が学習履歴を自己評価し振り返る機会を提供している。

前述した「グローバル人材育成推進事業」の採択を受けた42大学の半数以上が学習成果分析のためにポートフォリオの活用の実施や準備を行っているため、本研究の成果が活用されることを期待している。

#### (4) 研究発表等例

2011年9月コペンハーゲンで開催されたEAIE年次総会で、学習成果分析に関連するワークショップに参加するなど調査を行った。

2012年5月学習成果分析、ポートフォリオの専門家(Darla Deardorff: AIEA事務局長、Susan Kahn: インディアナ大学パーデュー校、Beverley Oliver: デアキン大学教授)を招聘して国際シンポジウムを開催した。

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計13件)

芦沢 真五、グローバル人材育成における大学の役割(グローバル・コンピテンスと学習成果分析)リメディアル教育研究、査読有、9巻、2014、42-50

鳥居 朋子、学習マネジメントにおける学生データの活用 ヘルシンキ大学のLEARN フィードバック、立命館高等教育研究、査読有、14巻、2014、147-160

芦沢 真五、持続可能な国際化を実現するために 大学国際化のための「ひと」「もの」「カネ」、大学マネジメント、査読無、9巻、2013、20-27

芦沢 真五、日本人の留学意識と留学交流活性化への課題、教育展望、査読無、10月号、2013、41-45

太田 浩、韓国における外国学歴・資格評価システム、ウェブマガジン「留学交流」、査読無、27巻、2013、  
<<http://www.jasso.go.jp/about/documents/201306otahiroshi.pdf>>

工藤 和宏、「国際プログラムの学習成果分析とEポートフォリオ」第4回:事例紹介(3) 豪州の大学における運用事例、ウェブマガジン「留学交流」、査読無、23巻、2013、  
<<http://www.jasso.go.jp/about/documents/kudokazuhiro.pdf>>

小貫 有紀子・平井 達也、「国際プログラムの学習成果分析とEポートフォリオ」第3回:事例紹介(2) 北米中西部の大学における運用事例、ウェブマガジン「留学交流」、査読無、22巻、2013、  
<[http://www.jasso.go.jp/about/documents/onukiyukiko\\_hiraitatsuya.pdf](http://www.jasso.go.jp/about/documents/onukiyukiko_hiraitatsuya.pdf)>

秋庭 裕子・米澤 由香子、「国際プログラムの学習成果分析とEポートフォリオ」第2回:事例紹介(1) 北米東部の2大学における運用事例、ウェブマガジン「留学交流」、査読無、21巻、2012、  
<[http://www.jasso.go.jp/about/documents/akibahiroko\\_yonezawayukako.pdf](http://www.jasso.go.jp/about/documents/akibahiroko_yonezawayukako.pdf)>

芦沢 真五、「国際プログラムの学習成果分析とEポートフォリオ」第1回:海外学習体験の質的評価の将来像、ウェブマガジン「留学交流」、査読無、20巻、2012、  
<<http://www.jasso.go.jp/about/documents/ashizawashingo.pdf>>

芦沢 真五、国際教育におけるeポートフォリオの将来性を考える、文部科学省通信、査読無、9月号、2012、28-29

太田 浩、グローバル人材育成の仕組みづくりを、公明、査読無、74巻、2012、33-38

鳥居 朋子・岡田有司、私立大学における大学生の学習成果の規定要因-ユニバーサル・アクセス時代における多様性と質保証の視点から-、京都大学高等教育研究、査読有、第17号、2012、15-26

芦沢 真五、留学生受入れと高度人材獲得戦略-グローバル人材育成のための戦略

的課題とは、ウェブマガジン「留学交流」、  
査読無、10巻、2012、  
<<http://www.jasso.go.jp/about/documents/shingoashizawa.pdf>>

〔学会発表〕(計30件)

工藤 和宏、グローバル人材とグローバル・コンピテンス 異文化間教育学からの考察、日本学術会議 若手アカデミー委員会 若手研究者ネットワーク検討分科会主催学術交流ポスターセッション、2014年3月7日、日本学術会議講堂

米澤 彰純、World-Class Research & Education in a Matured Economy: Challenge of Research Universities in Japan、Asia Pacific Higher Education Research Association、2014年1月26日、広島ガーデンプレイス

芦沢 真五、多様化する海外学習機会と質保証のあり方、東洋大学国際地域学部グローバル人材育成推進事業公開セミナー「海外学習の多様化と学習成果分析」、2013年11月29日、東洋大学

工藤 和宏、グローバル・コンピテンス再定義と日本における課題、東洋大学国際地域学部グローバル人材育成推進事業公開セミナー「海外学習の多様化と学習成果分析」、2013年11月29日、東洋大学

工藤 和宏、Developing global human resources through university internationalization: The case of Japan、Sixth Global Studies Conference、2013年9月5日～9月7日、India International Centre (インド)

米澤 彰純、Universal Higher Education and Talent Circulation in Japan as an Ageing Society、International Symposium on Talent Competition and Circulation in Asia: Education, Migration and Economy、2013年10月18日、National Taiwan Normal University (台湾)

芦沢 真五、Exploring e-Portfolio as an Assessment Tool in International Education、IV FORUM ON INTERCULTURAL LEARNING AND EXCHANGE、2013年9月29日、Intercultura Foundation(イタリア)

太田 浩、From Inbound to Outbound: The Changing Landscape of Student Mobility in Japan、Japanese Studies Centre Seminars、2013年8月28日、Monash University (オーストラリア)

米澤 彰純、Policy frameworks to enhance international student recruitment、Cross Border Higher Education Symposium、2013年8月20日～8月21日、Kuala Lumpur (マレーシア)

芦沢 真五、ポートフォリオによる学習成果分析、東洋大学国際地域学部グローバ

ル人材育成推進事業公開セミナー「Eポートフォリオを利用した国際教育活動の実践-海外学習の成果をどう可視化するか」、2013年6月14日、東洋大学

工藤 和宏、カリキュラムの国際化と学習成果-オーストラリアの大学で『グローバル人材』は育つのか、第24回オーストラリア学会全国研究大会、2013年6月9日、名古屋商科大学

鳥居 朋子、IR部門と学部の連携による学習成果測定の結果の活用-学生個人へのフィードバックの試み-、大学教育学会第35回大会、2013年6月2日、東北大学

芦沢 真五、What works: Exploring e-portfolio and other Assessment Methods in International Education、NAFSA 2013 Annual Conference & Expo、2013年5月31日、America's Center, St.Louis (アメリカ合衆国)

太田 浩、Globalization and Student Mobility: Emerging Trends and New Directions from and to Japan、NAFSA 2013 Annual Conference & Expo、2013年5月29日、America's Center, St.Louis (アメリカ合衆国)

鳥居 朋子、Exploratory Research on Learning Outcomes of Student Athletes in Japan、Association for Institutional Research 53<sup>rd</sup> forum、2013年5月21日、Long Beach Convention Center (アメリカ合衆国)

芦沢 真五、Assessing International Learning Outcomes: Exploring E-Portfolios、AIEA 2013 Annual Conference、2013年2月17日～2月20日、New Orleans Marriott (アメリカ合衆国)

秋庭 裕子・芦沢 真五・小貫 有紀子・米澤由香子、eポートフォリオを活用した学士課程教育改善の取組と課題: アメリカの大学を事例として、日本比較教育学会、2012年6月15日～6月17日、九州大学

工藤 和宏、異文化間教育におけるeポートフォリオ活用の可能性-オーストラリアの大学の事例に基づく-考察、異文化間教育学会第33回年次大会、2012年6月9日～6月10日、立命館アジア太平洋大学

芦沢 真五、国際教育交流の新展開-グローバル人材育成の課題、九州・山口地域の大学国際化ワークショップ、2012年3月16日、ANAクラウンプラザホテル福岡

鳥居 朋子、内部質保証システムを支えるIRの可視化、第18回大学教育研究フォーラムラウンドテーブル、2012年3月16日、京都大学

⑳ 芦沢 真五、競争環境下にある大学の国際化と留学生獲得戦略、留学生教育学会

- 2011 年度留学生担当教職員研究分科会、2012 年 3 月 2 日、岡山大学
- ②② 芦沢 真五、Internationalization of Japanese Universities and Global JINZAI, Japan Rising: The Future of the World's Third Largest Economic Power held by Asia Society Southern California, 2011 年 11 月 10 日、The California Science Center (アメリカ合衆国)
- ②③ 芦沢 真五・太田 浩、Quality assurance and internationalization review process: Europe, US and Japan, 2011 EAIE Annual Conference, 2011 年 9 月 16 日、Bella Center (デンマーク)
- ②④ 太田 浩、Recent Development of International Education in Japan, 2011 EAIE Annual Conference, 2011 年 9 月 15 日、Bella Center (デンマーク)
- ②⑤ 芦沢 真五、Recent Trends in Internationalization of Japanese Universities, German-Japanese Young Leaders Forum 2011, 2011 年 6 月 10 日、Cosmosquare Hotel (大阪府)

〔図書〕(計 7 件)

芦沢 真五、学文社、大学の国際化と日本人学生の国際志向性、2013、13-38

太田 浩、学文社、大学の国際化と日本人学生の国際志向性、2013、67-93

太田 浩 他、学文社、大学の国際化と日本人学生の国際志向性、2013、121-149

横田 雅弘、学文社、大学の国際化と日本人学生の国際志向性、2013、157-178

米澤 彰純 他、UNESCO Publishing、Rankings and Accountability in Higher Education, 2013、170-185

米澤 彰純 他、東信堂、新興国家の世界水準大学戦略-世界水準をめざすアジア・中南米と日本、2013、69-88

太田 浩、芦沢 真五 他、勁草書房、アジアの高等教育ガバナンス、2013、172-199

〔その他〕

ホームページ等  
<http://www.meiji.ac.jp/cip/riie/index.html> (明治大学国際教育研究所)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

芦沢 真五 (ASHIZAWA, Shingo)  
 東洋大学・国際地域学部・教授  
 研究者番号： 00359853

(2) 研究分担者

秋庭 裕子 (AKIBA, Hiroko)  
 一橋大学・商学研究科・特任准教授  
 研究者番号： 10313826

太田 浩 (OTA, Hiroshi)  
 一橋大学・国際教育センター・教授  
 研究者番号： 70345461

小貫 有紀子 (ONUKI, Yukiko)  
 大阪大学・未来戦略機構戦略企画室・特任講師  
 研究者番号： 30553416

北脇 学 (KITAWAKI, Manabu)  
 明治大学・国際連携機構・講師  
 研究者番号： 30601009

関山 健 (SEKIYAMA, Takashi)  
 明治大学・国際連携機構・特任准教授  
 研究者番号： 90583576

堀江 未来 (HORIE, Miki)  
 立命館大学・国際教育推進機構・准教授  
 研究者番号： 70377761

横田 雅弘 (YOKOTA, Masahiro)  
 明治大学・国際日本学部・教授  
 研究者番号： 90200899

米澤 彰純 (YONEZAWA, Akiyoshi)  
 名古屋大学・国際開発研究科・准教授  
 研究者番号： 70251428

米澤 由香子 (YONEZAWA, Yukako)  
 東北大学・国際教育院・准教授  
 研究者番号： 60597764

(3) 連携研究者

工藤 和宏 (KUDO, Kazuhiro)  
 獨協大学・外国語学部・講師  
 研究者番号： 70364726

竹内 愛 (TAKEUCHI, Ai)  
 共愛学園前橋国際大学・国際社会学部・助教  
 研究者番号： 80581884

鳥居 朋子 (TORII, Tomoko)  
 立命館大学・教育開発推進機構・教授  
 研究者番号： 10345861

平井 達也 (HIRAI, Tatsuya)  
 立命館アジア太平洋大学・教育開発・学習支援センター・准教授  
 研究者番号： 80389238